

## エビデンスを開発現場と政策作りに反映したい

氏 名：畑山 真穂 2021 年度（10 期）

修学機関：メリーランド大学公共政策大学院 博士課程（公共政策）

University of Maryland, School of Public Policy, Doctor of Philosophy (PhD)

研究テーマ：貧困層へ雇用機会を創出する産業政策の検討

Industrial policy for job creation and poverty reduction

略 歴 （はたやま まほ）

世界銀行雇用と社会保障局にてエコノミストとして勤務。2014 年 London School of Economics (LSE)にて修士号取得。卒業後、開発コンサルタント企業にて、モザンビーク農業開発や能力強化に係る日本 ODA 事業に従事。2017-2018 年には国連開発計画（UNDP）リベリア国事務所にて中小零細企業支援プロジェクトに従事。その後、イギリス研究機関 Institute of Development Studiesにて研究員としての勤務を経て、2019 年より世界銀行にて勤務。勤務を継続しながら、今年度よりメリーランド大学公共政策大学院で博士課程を開始。

--- --- ---

## バックグラウンド

私は、10 代の頃より途上国開発に携わりたいと考えていました。大学に進学して以降、学生として途上国開発に関するボランティア活動に参加しました。アフリカやアジアの国々を訪れる中で、人々の経済的な自立が大切だと思えるようになりました。特に、雇用の創出、競争力のある企業や産業育成を支援し、地域の経済的自立を支援したいと考えるようになりました。例えば、これまで訪れたり、居住した西アフリカの国々では、国内産業が未発達であり、多くの若者が雇用機会を得られない状況を目の当たりにしました。こうした課題を解決したいと思い、これまで産業・民間セクターの支援、雇用・労働を専門分野として、開発コンサルタント会社、国連、イギリス研究機関で勤務し、2019 年からは世界銀行で雇用・労働政策にかかる研究や開発プロジェクトに従事しています。

## 博士課程への進学を決めた動機

約 8 年間、国際機関、研究機関や民間コンサルト会社において、国際開発プロジェクトや研究業務に携わりました。その経験の中で、一国が行う政策立案と実行の仕方を知る機会を得ましたが、多くの国では、政策形成プロセスに客観的な根拠が反映されていないと感じました。この問題意識から、政策レベルの研究と助言を通じて、客観的な分析や研究結果に基づいた政策作りを支援できる実務家および研究者になりたいと思うようになりました。より体系的に専門性と研究能力を高めたいと思い、博士課程へ進学するに至りました。

## 世界銀行での勤務との並行

博士課程と並行して、現在は、世界銀行、雇用・社会保障局で勤務しています。主に、労働市場規制・雇用政策に関する研究やマイクロデータを使った労働市場における課題に関する分析業務等に携わっています。コロナウイルスによるパンデミック中は、コロナが労働市場や雇用に及ぼす影響なども定量分析しました。

コロナ中に勤務と並行しながら入学準備及び出願をして、今年 9 月ようやく博士課程に入学しました。現在は、上司や同僚の理解とサポートの上で、勤務を継続しながら大学院の授業に参加しています。博士課程では、論文の執筆に加えて、必須科目および研究手法コースの履修も求められます。今学期履修している科目は業務にも役立つ実証研究手法・計量経済学です。入学して以降、過去数か月には、授業で学んだ知識を直接業務に活用する機会が何度もありました。勤務をしながらの学業は、時間的な制約が多く、非常に忙しい日々が増えましたが、これまで学びたかった研究手法を学び、大学の教授やほかの学生との議論は非常に楽しいです。また、世界銀行での業務を通じて、同分野で活動するエコノミストから学ぶ機会も多く、今後研究をすすめる中で、研究の結果を政策作りや開発事業に直接活用する機会が得られると思っています。



現在従事するホンジュラスにおける若年者雇用に関するプロジェクトの会議

### アメリカにおける大学院博士課程

メリーランド大学(University of Maryland)は、ワシントン DC 北東のメリーランド州カレッジパーク(College Park)を本拠とする州立総合大学です。アメリカ公立大学の中での名門校を指す"Public Ivy"にも数えられ、研究活動が盛んです。また、緑に覆われた敷地の中に大学の建物がああり、広々としたキャンパスは非常に綺麗です。メリーランド大学は、国際色豊かで、海外留学生も多く受け入れています。



メリーランド大学メインキャンパス 広大な庭

私が、メリーランド大学の博士課程を選んだのは、労働・開発経済学について学べる環境があり、同じ分野を研究する教授からのサポートを頂けると考えたためです。また、世界銀行での勤務を継続することを条件としていたため、立地面からワシントン DC に住みながら通える大学院を探していました。

これまで悩みながら進んできました。今後も、フルタイムでの実務と研究の両立は困難な場面も多くなると思いますが、その分実務と研究の双方から多くの学びの機会があると考えています。社会人学生を対象にした奨学金プログラムは数少なく、今回は FASID 様から 博士課程での研究を支援していただけることは、心の支えになっています。本当に感謝申し上げます。実務者として研究者として途上国開発に貢献できるように努力していきます。